投稿

# 天教研全国周遊記
## ～支部会を全て訪ね見て～

鈴木 隆之（中国四国支部）

**1．はじめに**

一応、中国四国支部の学生会員の鈴木です。他の支部の会合に度々顔を出しているので所属支部がわからなくなりつつあります。昨年は、天教研の全ての集いに参加してしまったので、ここに紀行文を寄稿します。正式な支部会報告書は各支部委員の方が既に寄稿或いは、今後寄稿される物かと思われますが、ここでは一来訪者の私の視点から支部会を巡って何を感じたか、徒然なるままに書きすすめたいと思います。

**2．関東支部会＠立教大学(1/18)**

2009 年 1 月。さあ、始まった世界天文年。全国でオープニングイベントやキックオフイベントが開かれていました。この時の関東支部会は公認イベントとして指定され、あたかも天教研にとってのキックオフイベントの様でした。

この時、私は山形大学の M2 で修士論文の研究をなんとかまとめ上げた段階で、山口大学に D 院試の願書を出していましたが、進路未決状態でした。(M2 の時期に冬の陣の記念誌などに手を出したツケが回ってきた様です。)

そして、関東支部会の二日後が試験の日だったのですが、何を思ったのか、受験旅行の序[つい]でに立ち寄ることにしました。

公認イベントとなっていたためか、天文年関係の発表が多く、特に矢島先生の講演「ガリレオ・ガリレイの時代とその功績」については大変参考になりました。どうしても天文年での活動や企画に目が行きがちだったので、ガリレオ自身の伝記や功績について考えるいい機会になったと感じています。

さて、私にとっての驚き(surprise)はこの後、訪れます。世界天文年についてのパネルディスカッションが予定されていたのですが時の会場ホストの矢治先生に突然「パネリストやってみない？学生代表として。」などと言われてしまいました。突然の指名＆学生代表という言葉に驚きましたが、天文年についての自分の想いを示すいい機会にもなると思ったので諒解して壇上に上がる事にしました。

冬の寒い一日でしたが、夜は、もつ鍋を囲って酒を飲み交わし温まりました。試験の直前に「何をしているんだ自分は」と思いつつも宴席には基本的に参加する主義なので…酒で体を温めた後は、夜行列車で西に向けて旅立ちました。

**3．中部支部集会＠安八 町(2/28～3/1)**

何だかんだで論文も書き上げ、試験にも合格することもできました。一安心している時期に中部支部会のお知らせを目にしました。新居探しや諸手続きのその序[つい]で立ち寄ろうとまた参加を申し込みました。

支部集会そのものは一日目はハートピア安八で、二日目は三洋電機太陽電池科学館(ソーラーアーク)にて行われました。毎度ながら会員の皆さんの発表も有意義な物でしたが、今回はそれぞれの施設見学も時間を掛けて行われ、色々と勉強になりました。特に船越さんの自作天文教材やオリジナルな普及ネタには脱帽です。

**3．近畿支部会＠大阪市立科学館(3/28)**

天文年の春に、人生初の学会発表をすることになりました。大阪府立大学での天文学会春季年会です。3/24～27 の日程で行われまし

た。私は卒業式(修了式)を欠席して学会発表に挑みました。発表そのものは一部マシントラブルもあったものの無事にこなす事が出来ました。天文学会の直後に同じく大阪で近畿支部会があるとのことで、これまた序[つい]でに参加する事にしました。

なんでも、2008 年の年会で若手によるプロジェクト企画を発表した同志が特別発表を実施するとの事で赴いてみると、本人欠席で有本さんによる代読だったのです。その場に於いては、若手の活動の今後の在り方について様々な議論がなされ、その場の勢いで天教研役員選挙への若手全国同時立候補を公約してしまいましたが、「全国同時」はちょっと失敗だったなと今になって思ってます。

その後、若手プロジェクトもあまり進んでなく、他の皆さん社会人になって忙しいようなので、このまま自然消滅しそうな状態です。

**4．中国四国支部集会＠サヒメル(4/25～26)**

何だかんだで、異動も終わり山口県民になりました。天教研でも所属支部を中国四国支部に変更したばかりのこの時期ですが、早速支部会があるとの事で、参加する事にしました。前年の会にも関西の学生と冬の陣の打ち合わせをする序[ついで]で遠来客として参加しましたが、今回は本拠地からの参加になります。この時印象に残ったのは、福岡から参加頂いた園部さんの幼稚園での天文教育についての発表で、多少比喩を用いながらも宇宙の創生についてまで扱っているようで感心しました。夜は持ち寄った酒による宴が日付が変わるまで続き、天教研の今後や改革案について等、複雑な問題も話題に上りました。

**5．年会—京の都にて(8/9～11)**

支部会の話を中心に書いていますが、序[つい]で年会の事にも少しふれます。年会はひょんな事から、突然スタッフになりました。受付で慌ただしく領収証の受け渡しをしたりマイクを持って、会場を回って歩いたり・・・色々といい経験をさせていただきました。

**6．九州支部会＠大分大学(11/14)**

年会の会場で、大分大学の仲野先生と話しこんで、人手が足りぬと聞き及びまたまた助っ人としての参加をすることにしました。

この時の目玉はなんといっても大分関崎海星館の元館長の船田工さんの「コロナを追って４０年」という特別講演でした。

日食を追い求めて世界を回るそのバイタリティもさることながら、スライド投影機で話の流れに沿って、写真をその場で選び映していく手際の良さにも感服しました。

デジタル時代でも、アナログにはアナログ良さがあるのだとつくづく思いました。

残念だったのが、参加者が少ないことで(10名うち会員 5 名)です。ただ、何方の台詞か忘れましたが「細々とでも年に一度顔を合わせようとする事が大切なんだ」という言葉が印象に残りました。

**7．関東支部会＠浦和高校(11/15)**

九州支部会に赴くことを決めた際に、自分が今年これまで行われた全ての支部会に参加していた事に気づきました。この際、世界天文年でもあるし？全部参加してしまおうと思いました。序[つい]でではなく支部会全参加の目的のために参加を決めた関東支部会です。この時、蕨高校の篠原さんにその年の支部会全部参加した人は珍しいから紀行文でも天文教育に載せてみたらと勧められました。

冗談だったのかもしれませんが、この通り、書いてしまいました。

**8．中部支部会＠木曽駒高原（12/19～20)**

関東支部会と九州支部会が行われる事は例年の流れからなんとなく解りましたが、この年は中部支部会が年二回行われる様です。そして、支部会の直後に理論系天文学者の集い理論天文学懇談会(通称：理論懇)が運よくも？名古屋大学で開かれると言う事で、またまた序[つい]でで参加する事が出来ました。

(深酒をして、明日寝坊して、発表に間に合わないのではという不安もありましたが…)
夜には 2011 年のリニューアルされる名古屋市科学館での年会についての議論が交わされました。実行委員のみならず色々な人の意見が合わさって創られる年会になるように見えました。2011 年が楽しみです。翌朝は予定通り起床でき、気持ちを切り替え本業に戻る事にしました。

**9．後書き—支部会を全て訪ね見て**

支部会を全て訪ね見ての一言ですが、やはり「支部会は必要だ」ということです。これだけ長々書いて、言いたい事はそれだけですか？と言われそうなので、もう少し書かせて下さい。

今の時代コミュニケーションツールは色々あり、天文教育普及の世界でも様々に活用されているかと思います。ML 等を中心としたネットワーク色々あるでしょう。

しかし、本当の意味での交流は、顔を合わせて話して(飲んで？騒いで？)こそだと言うのは、時代が進んでも変わらないではないのでしょうか。これが私の持論です。

どこかで耳にはさんだ話ですが、コミュニケーション論によると､「人間関係は相手にどれだけコストをかけてコミュニケートしているか、の積み重ねが信頼や愛着などに影響する」とのことです。ここでのコストはお金のみならず、時間や或いはそれ以外のあらゆる意味でのコストです。メール等で済まさずに多少、お金や時間を割いてでも会って話そうとする姿勢が絆を強くしているのではと。

天文教育や普及をテーマに全国から同士が集う年会には大変重要な意義があるとともに、遠路遥々年会に赴く事が出来ない人にとって近場で気軽に参加できる支部会はそれを補う側面があると思われます。加えて、天文教育や普及に関しては光害・天文施設・観測適地・自治体の方針について等、地域性ある話題も色々ありますが、それらを議論できる場としての役割もあるかと思います。

とはいえコストが掛かり過ぎて支部委員の皆さまの負担になるのも心苦しく思いますので、何らかの手法や形式を変えてその負担を軽減する必要があるのかもしれません。
ただ、主催する側としても参加する側としても､「年に一度はあって話そう」とする姿勢が肝要なんだと思います。
なので、今まで天教研のイベントに参加した経験のない方も、年会はちょっと敷居が高いのかもしれませんが、近場で支部会が開かれた時は気軽な気持ちで、是非いらっしゃってください。真面目な集いであるけれど決して堅苦しくないホスピタリティある雰囲気が本会の魅力です。

最後に、全国行脚の中で宴席等にて学生料金で参加させて頂いた事も何度かあります。お世話になった皆さまに御礼を申し上げるとともに、このご恩は出世払いとしていつかお返しすることを約束させて頂きます。
本懐を遂げる事が出来たので、暫くは本拠地で安らかに過ごす予定ですが、序[つい]でで参加できる会があれば顔を出させて頂きますので、その時は宜しくお願いいたします。

鈴木 隆之